

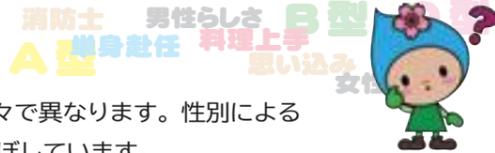
「ふつう」や「男らしさ」「女らしさ」は誰が決めた？

誰にでもありうる無意識の思い込み = アンコンシャス・バイアス

「アンコンシャス・バイアス」とは、Unconscious「無意識の」とBias「先入観・バイアス」という言葉を組み合わせた造語です。私たちは過去の経験や聞きしたことなどから、「この人は〇〇だからだろう」「普通は〇〇だからだろう」と、知らず知らずのうちに思い込みで判断してしまふことがあります。

- 例) ・「消防士」と聞いて男性を連想する。
 ・「単身赴任中」と聞くと父親を想像する。
 ・血液型で性格を想像してしまう。

こうした思い込みは誰にでもあり、解釈や感じ方もその時々で異なります。性別による固定的な思い込みは特に根強く、さまざまな場面で影響を及ぼしています。



アンコンシャス・バイアスの問題点

善意のつもりで発した言葉や行動が、「決めつけ」や「押しつけ」になり、意図せず相手に傷つけてしまうことがあります。これを「マイクロアグレッション」(小さな攻撃性・自覚なき差別)と呼びます。

- 例) ・男性なのに料理が得意なんてすごいね！
 ・女の子なのにサッカーが上手でかっこいい！
 どちらも発した側に悪意はなく、相手を褒めるつもりで発言しています。しかし、言われた側は違和感を感じることがあります。料理が得意なことやサッカーが上手なことと性別は関係しているわけではありません。

大事なことは…

- ①自分にも無意識の思い込みがあるということをいつも頭のどこかで考えるようにすること
- ②言葉や行動にする前に、立ち止まって考えること

自分の中にある「アンコンシャス・バイアス」に気付くことで周りの人や自分の選択肢を狭めることなく、一人一人が自分らしく生きやすい社会を皆でつくっていきましょう。

建設業界で活躍中！

榊村尾重機 黒山 瞳さん



建設業界で、工事の施工管理などを行っている黒山さん。重機の運転資格や国家資格なども積極的に取得しています。昨年、CCI東京(東京都魅力ある建設事業推進協議会)が行う「第5回CCI東京建設業 若手・女性活躍大賞」を受賞しました。「まだ経験も浅く、上司や先輩技術者と圧倒的な差があるので、それを埋められるように頑張ります。DXなどを学んで習得していきたい」と今後の目標を語ります。

Weave…英語で「織る」の意味。1枚の布を織りなす縦糸と横糸のように女性と男性が社会のあらゆる分野に協働して参画することを、羽村市ではウィーブと呼んでいます。

～ウィーブ～

Weave

誰もが輝く社会を実現するために

問合せ 総務課総務係 347

1月11日、プリモホールゆとろぎで「第39回ジェンダーをこえて、ともに織りなすフォーラム in はむら」を行いました。講師に鈴木 茂義さんを迎え、参加者とともに、誰もが自分らしく生きやすい社会について考えました。



鈴木 茂義さん

(NPO法人プライドハウス東京理事/公立小学校非常勤講師/上智大学基盤教育センター非常勤講師/自治体のLGBTQ+相談員) 教師生活23年。在職中にLGBTQ+の当事者としてカミングアウト。現在は非常勤講師として、都内の特別支援学級で知的障害の子や自閉症の子と一緒に勉強する傍ら、全国出張授業などを展開している。

ジェンダーをこえて、ともに織りなすフォーラム in はむら
 「LGBTQ+を入りに考える共生社会の実現」より

■自分のライフストーリーから
 自分が何者なのか悩んでいた私が、自分をゲイの当事者として受け止めるきっかけとなった出来事は、大学生で初めて彼女ができたことでした。今思うと「異性を好きになる男性になれるかもしれない」と自分で自分を矯正しようとしたのかもかもしれません。自分勝手な考えで相手を傷つけて、あっという間に別れました。今でも反省していることの一つです。この頃から「この人なら大丈夫」と思える人にかミングアウトするようになりました。しかし就職すると、今度は赴任した学校や地域で「彼女は」「結婚は」と度々聞かれるようになりました。悪意のない質問だからこそ、対応に迷いました。小さな嘘やごまかして自分を隠し続けるのがどんどん辛くなりました。

一番難しかった両親へのカミングアウトは12年前。母は察していたようでしたが、父は怒り狂いました。「この子は一生幸せになれない」と思ったそうです。関係回復に2年かかりましたが、理解を得よう何度も会話を試みたせいか、父との関係は前よりもかえって良くなりました。10年前、小学校6年生を担任しました。「嘘はつくな」と子どもに言っている自分が嘘をつき続けている、と心苦しく感じていました。そんな中「OUT IN JAPAN※」というキャンペーンを知り、勇気を出して参加しました。結局子どもたちに自分がゲイとは伝えないまま、卒業式の後、退職しました。キャンペーンの写真は退職後に公開され、子どもたちや保護者の知るところとなりました。再会したとき、ある保護者は伝えて

くれました。「先生が、先生としてちゃんと仕事をしようとしてきたことを知っています。先生がゲイかどうかは全く関係ない」。ゲイの先生はダメだ、認めてもらえない、という差別や偏見の気持ちがある自分の中にもあったことに気づかされました。

■当事者を取り巻く状況
 最近、出張授業で自分がゲイであると告げても子どもたちはあまり驚きません。理由を尋ねると「LGBTQ+について学んでいるから」。一方で、「頭では理解できるが、どうしても違和感・抵抗感を感じてしまう」という質問を受けることもあります。そんな時は「違和感や抵抗感があっても大丈夫」と伝えます。ダメなのは「自分の中にある違和感・抵抗感が差別的な言葉や暴力的な行動となって誰かを傷つけること」です。

当事者を取り巻く状況はまだまだ厳しい。周囲の無理解や偏見、自分自身に対する偏見、男/女だったらこうあるべきという規範の押し付け、法律や制度に使えるものが少ないところも問題です。

このような状況を打開するためには、①学ぶことを通して社会の雰囲気をつくっていく ②子どもたちが、自分の将来を思い描けるようなロールモデルの存在や同じような仲間と出会う居場所がある ③世の中の多様な価値観を実感し、法律や制度、相談窓口などをより良いものにしていくことが大事だと思います。

※ OUT IN JAPAN (アウト イン ジャパン) …セクシュアル・マイノリティを支援する目的で行われたプロジェクト。LGBTQ+の当事者であることをカミングアウトしたいと願う人のポートレートをさまざまな写真家が撮影し、5年間で1万人のギャラリーを目指した。

この4つの視点だと、誰もがどこかに当てはまります。「マイノリティ」とその他ではなく、「自分事」として捉えたい。違いがあるのは「お互いさま」。私たちは皆、多様な性を生きる一人一人なのです。

「真の自立とは、依存先を増やすことである」と言った方がいます。変化の激しい時代、自分の力で頑張ることは大事ですが、安全・安心な人や場所、いわゆる安全地帯をより多く増やし、そういう場を適切に頼りながら生きていくことも大切なのではないのでしょうか。

(1) 出生時に割り当てられた性別 女・男	(2)性自認【GI】 Gender Identity 自分がどんな性別だと思うか
(3)性的指向【SO】 Sexual Orientation 恋愛や性愛の指向が、どんな性に向かうかわからないか	(4)ジェンダー表現【GE】 Gender Expression 服装などの外見、雰囲気、しぐさや言葉遣い

マイノリティの問題を、自己責任でその人だけの問題にするのではなく、社会全体で、周囲の人へのサポートや地域へのアプローチをしていくことが必要です。

■皆が「多様な」性を「生かす」「一人」最近SOGIE(ソジー)という視点が使われるようになってきました。